

2017年11月9日

各位

会社名 株式会社アサツー ディ・ケイ
代表者名 代表取締役社長 植野 伸一
(東証第一部 コード番号:9747)
問合せ先 コーポレート・コミュニケーション室長 中島 香
Tel 03-6830-3855

ADK、武蔵大学と学術交流協定を締結 —データサイエンス活用の裾野を広げる学術交流—

株式会社アサツー ディ・ケイ(東京都港区/社長 植野伸一、以下「ADK」と武蔵大学(東京都練馬区/学長 山脊哲哉)は、2017年10月1日に学術交流協定を締結しました。この協定は、学術交流をはじめとする連携と協力を促進するとともに、我が国におけるデータサイエンス活用の裾野を広げ、科学技術および学術研究・教育の発展に寄与することを目的としています。近年、ビッグデータを用いた研究は様々に進められており、今後は、学部・大学院・研究所におけるレベルでの連携・協力まで対象を拡大して取り組んでいく予定です。

具体的には、本学術交流協定のもと、武蔵大学の社会学部に新設された「グローバル・データサイエンスコース(GDS)」※1 では、ADK が保有する「生活者総合調査」※2 等の生活者調査データの提供を受け、GDS の授業でリアルマーケットの仮説検証・分析などを行っていく予定です。

また、その他にも GDS 受講生に向けて ADK から派遣する講師によるデータ分析に関する授業も検討されるなど、両者が連携することで GDS 履修生のデータサイエンススキルを醸成していきます。将来的には、GDS の授業に限らず、社会学部のゼミや卒業研究などでも ADK から提供されるデータを活用していくよう検討しています。

ADK はこれらの取り組みを通じて、社会的課題であるデータサイエンス人材育成への貢献を行い、交流の成果を当社スローガンである「コンシューマー・アクティベーション」推進に役立てていきたいと考えています。

※1 武蔵大学社会学部グローバル・データサイエンスコース(GDS)とは
武蔵大学社会学部に2017年4月に新設された、新しい時代の共通語である「データ」と「英語」をしっかり身に付け、社会と結び付けて分析できる人材を育成する4年間のコースです。

1 年次は海外英語研修などで英語力を身に付け、2 年次ではデータを分析する力を磨きま
す。培ったスキルを 3 年次以降は総合的に使える能力として精度を高め、卒業後は、デー
タ分析を必要とされる企業や政府組織など、創造性の高い職種での活躍が期待されます。

※2 ADK 生活者総合調査とは

毎年、関東・関西地区を対象に実施している 15,000 サンプル規模の大規模調査。生活者を
ライフスタイル・消費行動・メディア接触など 1,000 以上の項目により多角的に調査している。
これまで十数万件規模で蓄積されたデータは、その分析により多面的側面から捉え、より
深いターゲットインサイトを導き出すことを可能としている。

本件に関するお問い合わせは下記までお願いします。

株式会社アサツー ディ・ケイ
コーポレート・コミュニケーション室 平尾、中島
TEL. 03-6830-3855 e-mail: adkpr@adk.jp